

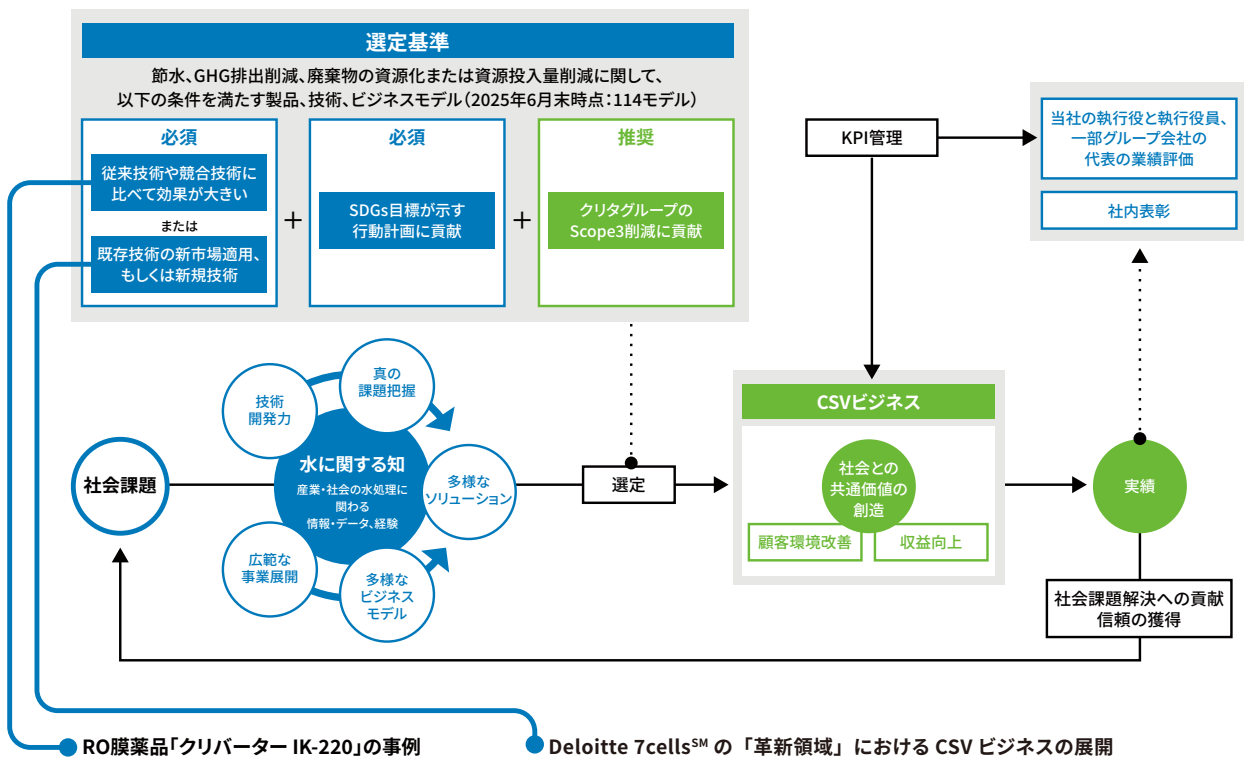
# CSVビジネス

## CSVビジネスとは

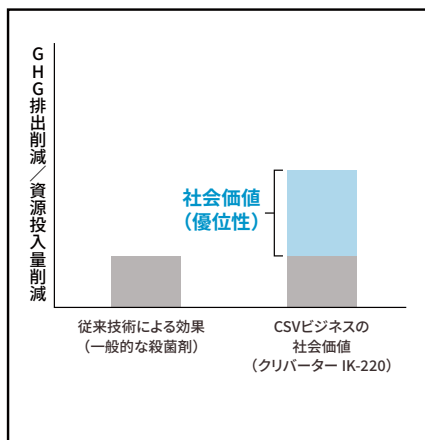
クリタグループでは、従来と比較して節水、GHG排出削減、廃棄物の資源化または資源投入量削減のいずれかに大きく貢献する製品、技術、ビジネスモデルを「CSVビジネス」として定めています。各CSVビジネスの環境貢献度は、節水貢献量などの指標ごとに係数化され、顧客による採用実績と組み合わせ、具体的な環境負荷削減貢献量として算出しています。

クリタグループでは、より高い優位性を持つ製品、技術、ビジネスモデルの開発状況に応じて、CSVビジネスを継続的に見直しており、「クリタグループのマテリアリティ」の共通価値テーマ「水資源の問題解決」「脱炭素社会実現への貢献」「循環型経済社会構築への貢献」およびPSV-27計画の財務目標と連動した取り組みとしています。なお、CSVビジネスによる節水貢献量、GHG削減貢献量、資源化貢献量、資源投入削減貢献量の各指標およびCSVビジネス売上高の計画達成率は、当社の執行役と執行役員および一部グループ会社の代表者に対する業績連動報酬の業績評価に用いられています。

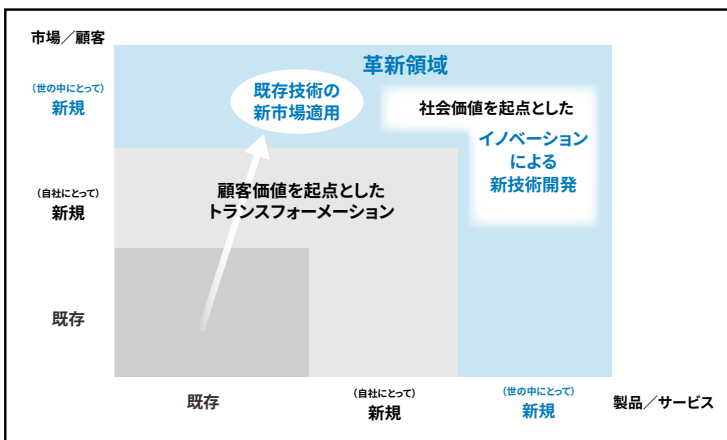
### CSVビジネスの選定基準とマネジメント



● RO膜薬品「クリバター IK-220」の事例



● Deloitte 7cells<sup>SM</sup> の「革新領域」における CSV ビジネスの展開



業績評価について詳細はこちらをご覧ください。

統合レポート▷

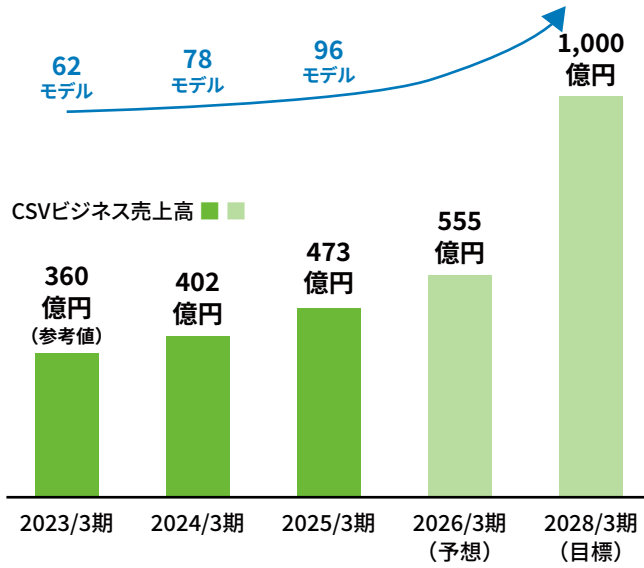
## CSVビジネス

### 目標と実績

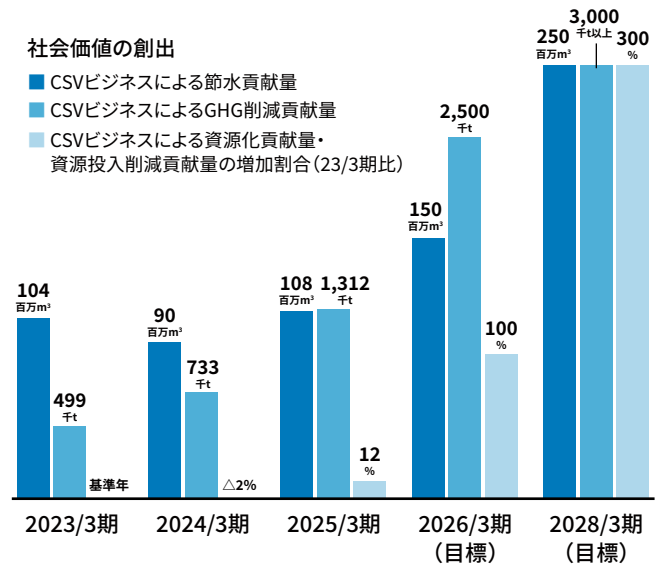
クリタグループは、「クリタグループのマテリアリティ」に掲げる共通価値テーマ「水資源の問題解決」「脱炭素社会実現への貢献」「循環型経済社会構築への貢献」およびPSV-27計画の財務目標に、CSVビジネスに関する目標を設定し、取り組みを推進しています。

2025年3月期においては、CSVビジネスのモデル数および売上高の拡大に取り組み、GHG削減貢献量の目標を達成しました。

モデル数・売上高



マテリアリティの指標・目標



マテリアリティの指標・目標および実績について、詳細はこちらをご覧ください。

[水資源の問題解決](#)

[脱炭素社会実現への貢献](#)

[循環型経済社会構築への貢献](#)

## CSVビジネス

# CSVビジネスの創出・展開に向けた取り組み

クリタグループでは、CSVビジネスのモデル数の増加、質の向上、販売強化に注力し、必要な体制を構築しています。これらを通じてCSVビジネスを継続的に創出し、展開を推進しています。

## モデル数の増加

クリタグループでは、CSVビジネスのモデル数の増加を目指し、イノベーション戦略の推進、サステナビリティ推進委員会傘下の専門分科会における各種活動、さらには顧客ニーズに基づくアイデアの抽出などに取り組んでいます。

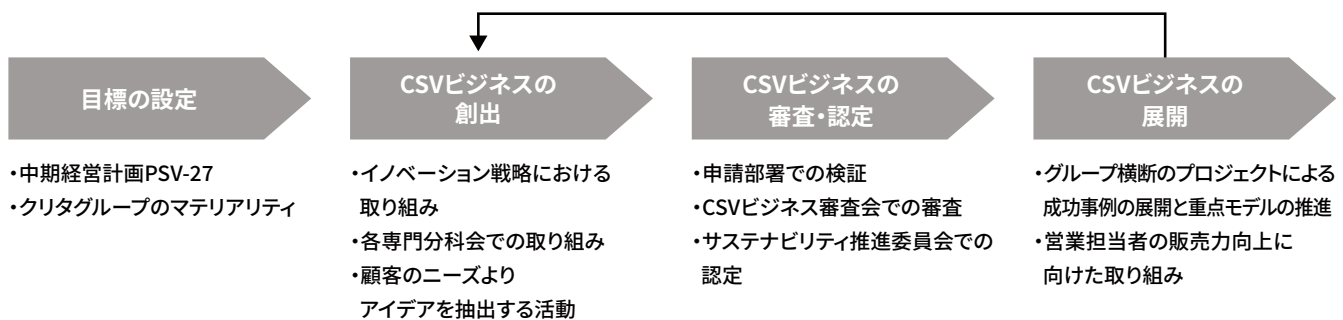
## モデルの質向上

クリタグループでは、CSVビジネスの質的向上を目的として、当社のChief Technology Officer (CTO) を中心に構成される「CSVビジネス審査会」を設置しています。本審査会では、主に技術面での新規性および優位性や、知的財産の観点からビジネスモデルの優位性を審査するほか、受注規模や収益性に関する目標の観点から新規CSVビジネスの採択および既存のCSVビジネスの継続可否について審査を行っています。審査を通過したCSVビジネスは、クリタグループのマテリアリティへの取り組みを統括・推進するサステナビリティ推進委員会にて最終的な認定の判断を行っています。

## 展開強化に向けた取り組み

クリタグループは、CSVビジネスの展開強化を目的として、グローバルに拡販を統括するグループ横断型プロジェクトを立ち上げました。各地域に「CSVビジネスアンバサダー」を任命し、各国・各地域における成功事例の共有や、重点モデルの展開を強化しています。また、営業担当者の提案力向上を図るため、説明会や事例集の整備・展開にも取り組んでいます。

### CSVビジネスの創出・展開に向けた取り組み



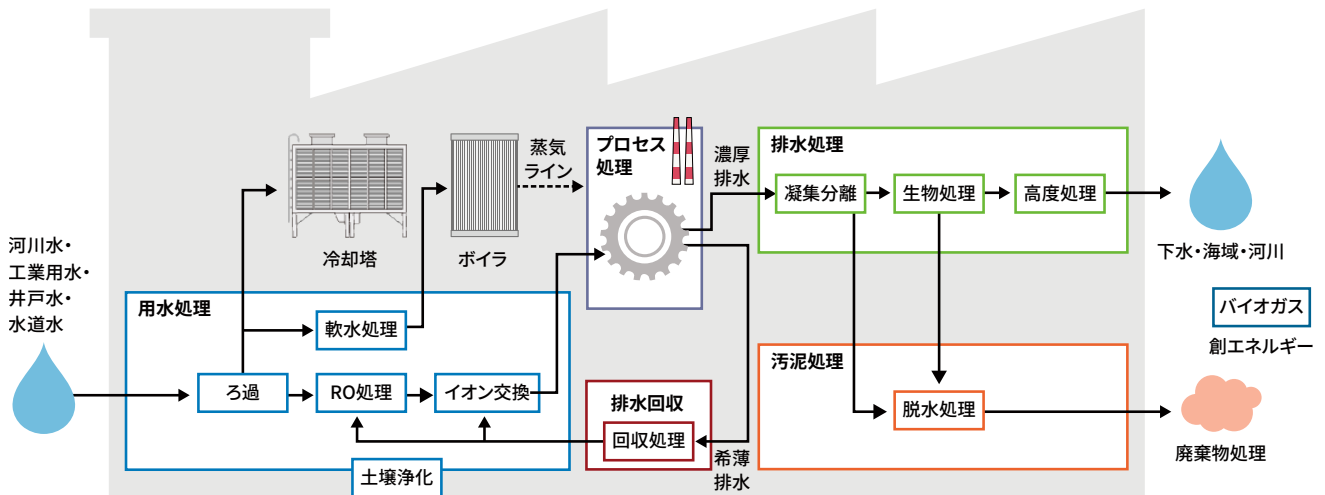
## CSVビジネス

### 代表的な事例

#### 水処理プロセスにおけるCSVビジネス

顧客の工場における水処理プロセスの様々なところでCSVビジネスを適用することが可能です。また、以下の工場における水処理プロセス以外にも、使用済紙おむつの再資源化や有機性廃棄物からバイオガスを回収する技術などもCSVビジネスとして展開しています。

#### CSVビジネスの適用領域



CSVビジネス	適用領域
生分解性防食剤配合冷却水処理薬品	●冷却塔
RoCleanシリーズ	●用水処理、●排水回収
Kurita Dropwise Technology	●ボイラからプロセス処理
用排水におけるPFAS除去技術	●用水処理、●排水処理
CORRシステム	●排水回収、●排水処理
汚泥の資源化	●汚泥処理

#### 節水 標準型排水回収システム「CORRシステム」/再生水供給サービス

##### 上水40%削減、下水30%削減、水コスト8.4%削減

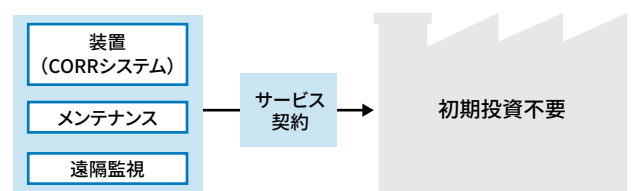
工場排水は通常、排水処理装置によって周辺環境に影響を与えない水質まで浄化され、下水道や河川へ放流されています。この排水を再利用することができれば、水の使用量を大幅に削減することが可能となります。しかし、工場排水は一般的に不純物を多く含み、水質の変動幅も大きいことから、安定的な排水回収を実現するには高い技術が求められます。

クリタグループが提供する標準型排水回収システム「CORRシステム」は、水処理薬品と水処理装置の技術を組み合わせたシンプルな装置構造と独自の水処理薬品の活用によって安定した排水回収を実現し、節水に貢献します。さらに、CORRシステムをクリタグループの資産として顧客の工場敷地内に設置し、運転管理からメンテナンスまでを一括で請け負う再生水供給サービスを提供しています。これにより、顧客が求める水量・水質の再生水を提供することが可能となり、運転管理からメンテナンスの負担軽減に加え、トータルコストの削減にも貢献します。

##### CORRシステム



##### 再生水供給サービス概要

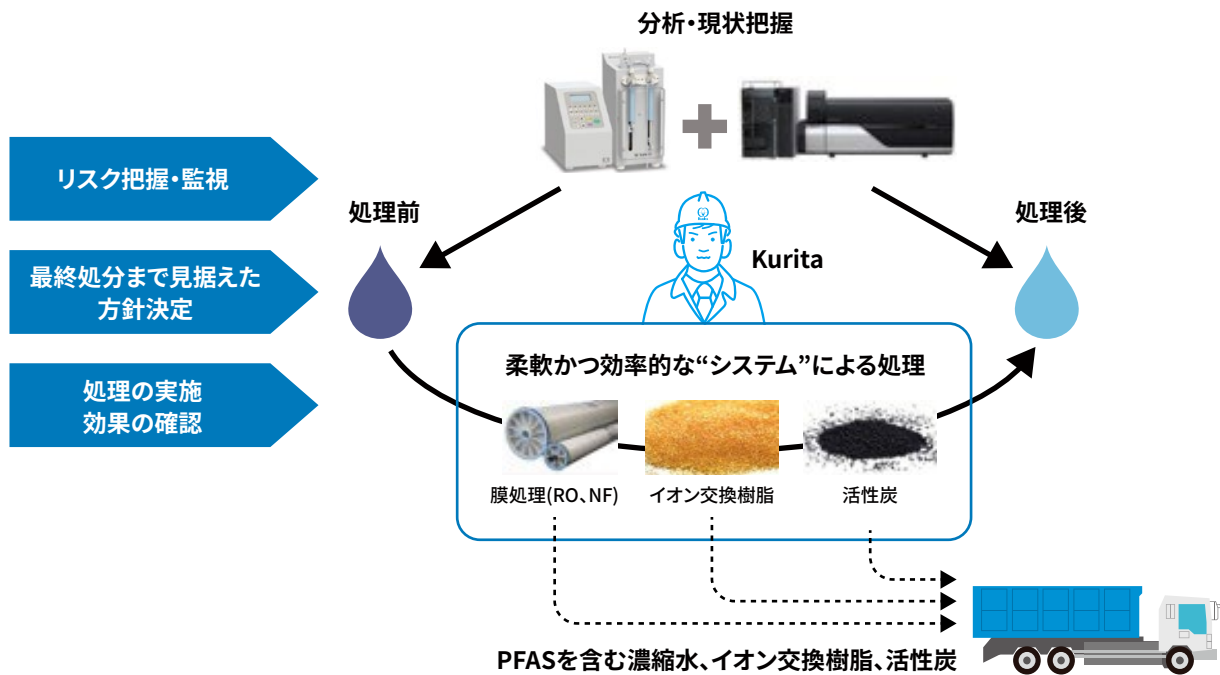


## CSVビジネス

### 節水 用排水処理におけるPFAS除去

PFASとは、人工的に作られた有機フッ素化合物の総称で、水や油を撥く性質や高い耐薬品性・耐熱性を持つことから、工業用から消費者向けまで幅広い製品に使用されています。しかしながら、PFASの一部は、発がん性や子どもの成長に影響があるなど、その有害性が指摘されており、近年欧米を中心に水質規制・製造規制が強化されています。日本においても、2026年4月からPFASのうち、健康影響が指摘されるPFOSとPFOAを水道法上の水質基準に定める省令が施行される見込みとなっています。

クリタグループは、PFASへの対応を水と環境に関する社会課題の一つと認識し、事業領域におけるPFASの影響等に関する多面的な情報の収集・分析と対応の検討を進め、水処理事業で培ってきた技術と知見を活かした最適なソリューションを提供します。用水処理では、原水に含まれるPFASを水質基準適合レベル以下にまで処理し、排水処理においては排水に含まれるPFASを除去した上で放流することで、水資源環境への拡散を防止し、水資源の循環にも寄与してまいります。



## CSVビジネス

## GHG排出削減 Kurita Dropwise Technology

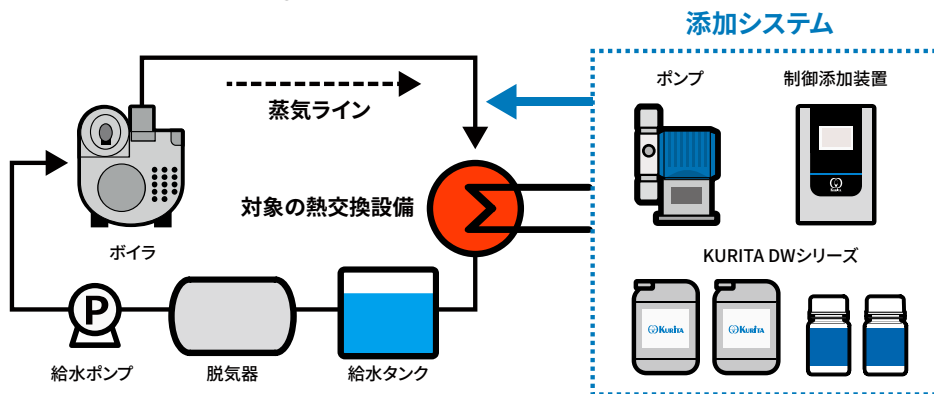
## ボイラ燃料使用量8%削減、GHG排出量を年間250t削減\*

多くの工場では、対象物の加熱手段として蒸気式熱交換器が広く使用されています。これらの熱交換器における伝熱面では、蒸気が金属表面を通じて対象物に熱を供給する過程で凝縮し、水膜が形成されます。この水膜が熱抵抗となりわずかな厚さでも熱伝達率を大幅に低下させ、蒸気使用量の増加につながっていました。

Kurita Dropwise Technologyは、伝熱面に撥水性を付与することで水膜の形成を抑制し、熱伝達率の向上を実現します。これにより、生産性の向上に加え、蒸気使用量の削減による省エネルギー化、ボイラ燃料の使用量削減を通じたGHG排出量の低減にも貢献します。

なお、Kurita Dropwise Technologyは水処理薬品を蒸気に添加するだけで効果を発揮するため、生産設備の停止や大規模な投資を行うことなく導入可能です。

## Kurita Dropwise Technology添加システム



## Kurita Dropwise Technologyのメカニズム



\*段ボール製造への適用事例

蒸気熱交換器の熱伝達率向上で燃料使用量の削減に貢献▷

Kurita Dropwise Technologyについて、詳しくはこちらをご覧ください。

Kurita Dropwise Technology (動画) ▷

また、2024年3月期には Kurita Dropwise Technologyを活用した「ファインスチーム」が紙パルプ技術協会の「佐々木賞」を受賞しました。

Kurita Dropwise Technologyを活用した「ファインスチーム」が紙パルプ技術協会の「佐々木賞」を受賞▷

## CSVビジネス

### GHG排出削減 生分解性防食剤配合冷却水処理薬品

#### サプライチェーン全体でのGHG排出削減

工場における冷却工程やオフィスの空調設備には、冷却水が用いられますが、腐食・スケール・スライムなど設備の安定稼働を妨げる障害への対策が必要とされます。

クリタグループの本薬品は、一般的な原料として使用されるリンおよび窒素への依存を最小限に抑えつつ、腐食の抑制や汚れの付着防止において、従来製品と同等以上の効果を発揮します。これにより、設備の安定稼働に加え、節水および省エネルギーの実現に寄与します。また、本薬品はカーボンネガティブな原料が使用されており、従来品と比べサプライチェーン全体におけるGHG排出量を大幅に削減することも可能です。



### 廃棄物の資源化 汚泥の資源化

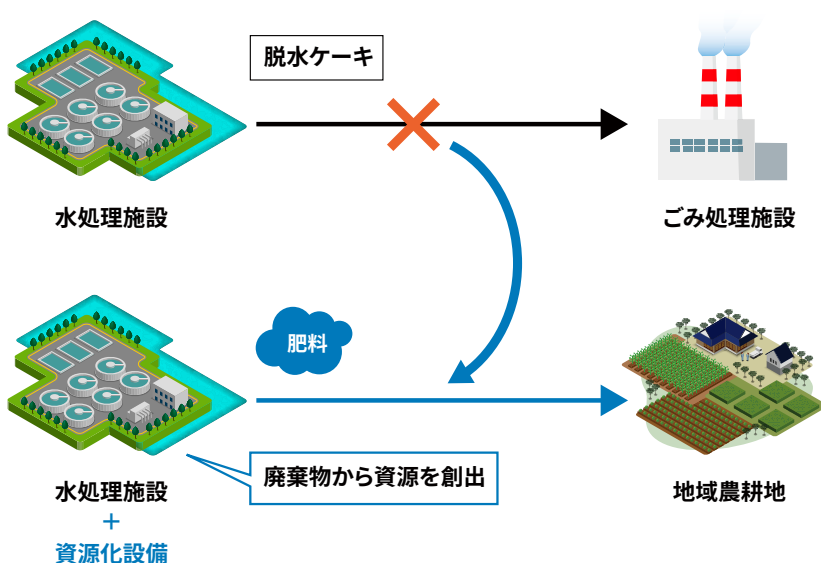
#### 汚泥を肥料へと再生

排水処理工程で発生した汚泥は、一般的に脱水・乾燥処理を経て、焼却や埋め立て処分されます。

クリタグループでは、これまで廃棄物として処理されていた汚泥を、資源化設備を活用することで肥料へと再生し、地域社会に提供しています。

資源化のプロセスでは、水処理設備と資源化設備を一括で運転管理することで、薬品使用量の最適化や、脱水設備と資源化設備において汚泥の水分バランスの統合的な制御を実現し、安定的かつ効率的な運用を可能にしています。本取り組みにより、廃棄物の資源化を推進するとともに、循環型経済社会の構築にも貢献しています。

#### 汚泥を資源化



## CSVビジネス

### 資源投入削減 RoCleanシリーズ

#### 環境負荷を低減しながらRO膜の寿命延長を実現

RO膜（逆浸透膜）は、水中に溶存している成分を除去するための重要な機能材であり、超純水の製造や排水回収など、水処理における様々な用途で使用されています。RO膜は一定期間使用されることで性能が低下し、寿命を迎えた膜は通常、廃棄物として処理されます。クリタグループが提供する「RoCleanシリーズ」は、RO膜に付着する汚れやスケールに対して、従来の洗浄剤と比較して高い洗浄効果を有しています。これにより、汚れを効率的に除去し、洗浄頻度の低減と差圧の解消を実現します。これを通じて、RO膜の性能維持および長寿命化を図り、廃棄物の発生量と資源投入量の削減に貢献します。

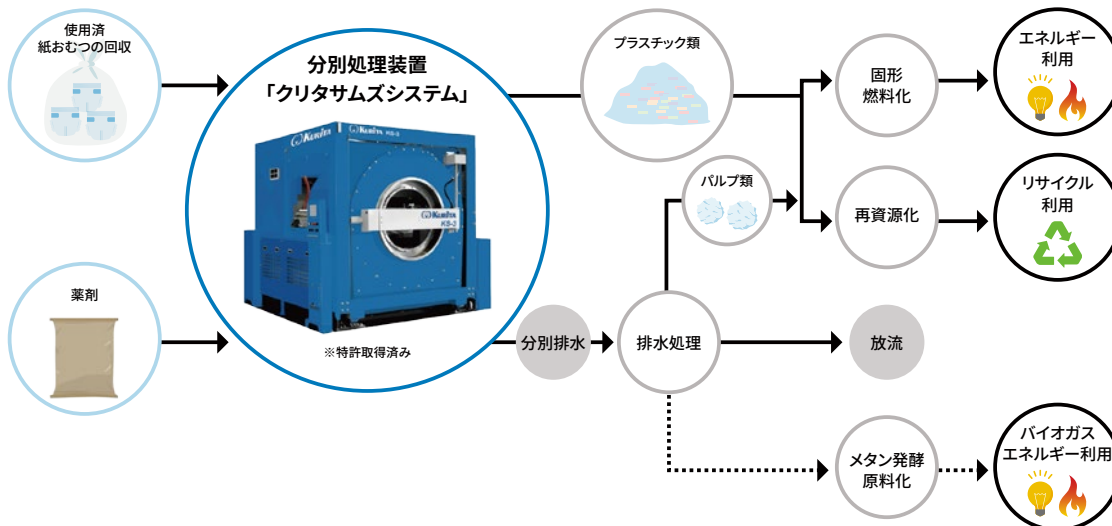


### 廃棄物の資源化 クリタサムズシステム

#### 使用済紙おむつを再資源化

日本国内では、使用済紙おむつの多くが一般廃棄物として、廃棄物処理業者や地方自治体などの焼却施設で処分されています。高齢化社会の進行に伴い、廃棄量のさらなる増加が予測されています。

当社が提供するクリタサムズシステムは、使用済紙おむつを洗浄・分別して再資源化する装置です。本装置に破袋機能を追加することで、ビニール袋に入った状態のまま処理が可能となり、衛生面の改善と作業効率の向上を実現しています。使用済紙おむつは本装置により洗浄・分解され、パルプ類を含む処理水とプラスチック類に分別されます。これらの分別素材は、固形燃料や再生プラスチックなどへの利活用が可能です。これらの取り組みにより、廃棄物の資源化を推進するとともに、循環型経済社会の実現に貢献しています。



クリタサムズシステムについて詳細はこちらをご覧ください。

[クリタサムズシステム | イノベーションに向けた取り組み ▷](#)

[使用済紙おむつを資源循環!「クリタサムズシステム」\(YouTube\) ▷](#)

[使用済紙おむつの分別処理装置「クリタサムズシステム」の事業展開を開始 ▷](#)

[鎌倉市の使用済紙おむつ再資源化の実現に向けた実証実験を開始 ▷](#)

[浜松市における使用済紙おむつリサイクルの推進に係る連携協定を締結 ▷](#)